

研究活動
藤田光寛

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表 の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会等の名称	概 要	編者・著者名 (共著の場合の 該当頁数 み記入)
(著書) □ 1. 大日経 I	共著	1986 (昭和61年)	真言宗選書 9 同朋舎	神林隆浄「大日経講義」、岩鶴密雲「西藏伝大日経住心品和訳」を収めた本書の責任編集と解題を担当したものの。	17頁
2. 瑜伽師地論菩薩地戒品	共著	1993. 5 (平成5年5月)	法蔵館	羽田野伯猷編集 分担 左頁には当該書のサンスクリット語、チベット語訳、漢訳を対校し諸版の異読を提示、右頁には海雲の注釈書(東北No.4047)の対応箇所を提示した〈菩薩地戒品〉のテキストであり、資料編には徳光の注釈書(東北No.4045)を収載したもの。それらのチベット語の部分に藤田光寛が分担担当した。	355頁
3. 定本弘法大師全集 第四巻	共著	1995. 2 (平成7年2月)	高野山大学密教文化 研究所	校訂・解説 後藤雅則・藤田光寛 弘法大師作の「仁王経開題」「法華経開題」「法華経釈」「法華経密号」「梵網経開題」「最勝王経開題」「金光王経秘密伽他」「金光般若波羅蜜経開題」「一切経開題」の校訂と解説を後藤雅則氏と共同で担当。	133頁
4. 仏教徒のあり方と戒律	単著	2003. 8 (平成15年)	高野山大学	高野山大学夏季生涯学習講座in 高野山2003で使用したテキストである。 インド初期仏教における戒律、 インド大乘仏教の瑜伽戒、後の インド密教の戒について解説した もの。 インド・チベット仏教における小乗戒、大乘戒、密教の戒を解説	125頁
5. はじめての「密教の戒律」入門 (学術論文)	単著	2013. 10	セルバ出版		127頁
1. 瑜伽師地論菩薩地戒品に 対するチベット語訳注釈 書、最勝子 註(東北 No.4046)と海雲註(東北 No.4047)とをめぐって	単著	1977. 2 (昭和52年2月)	密教文化118 高野山大学	『チベット大蔵経』には〈菩薩地戒品〉の注釈書が3種収められている。そのうち、最勝子が著したとされるもの(東北No.4046)と海雲が著したとされるもの(東北No.4047)とは同一のサンスクリット原典(その作者は海雲か最勝子かは速断できないが)から翻訳されたものであることを証明した。	17頁
2. 敦煌出土瑜伽論チベット 語遺文 I	単著	1979. 3 (昭和54年3月)	密教文化126 高野山大学	A.Steinが蒐集した敦煌出土のチベット語写本のうち、〈菩薩地〉に関連性を持つと思われる写本を整理し検討し、A.Stein蒐集写本目録には同定されていないもの(Stein nos. 673、676)の同定や、現存のチベット大蔵経に収められていない写本(Stein nos. 674、633-1)などの検討を行って、既述のA.Stein目録に新情報を付加した。	18頁
3. 瑜伽師地論菩薩地におけ るチベット語 bshinの用法	単著	1980. 3 (昭和55年3月)	高野山大学論叢15	チベット語訳文献のSyntax上の問題を 含む翻訳法の把握を視点におき、当 該文献におけるチベット語の用法を検 討した。	12頁
4. 律儀二十頌について	単著	1983. 3 (昭和58年3月)	中川善教先生頌徳記 念論文集	インド・チベット仏教における大乘 戒のうち、〈菩薩地戒品〉に説かれた いわゆる瑜伽戒は、Candragomin著 〈菩薩律儀二十〉(〈菩薩地戒品〉の	26頁

5. Byax chub bzax po 著 菩薩律儀儀軌について	単著	1983. 3 (昭和58年3月)	密教文化141 高野山大学	内容を二十の偈頌にまとめたもの)とその注釈書 (v3tti と pa'jikq) を用いて展開した。そこでこの〈菩薩律儀二十〉の内容と特徴を論じたものである。 当該文献 (東北No.3967=4491) に相当するサンスクリット語写本の存在をはじめて指摘し、当該文献の内容を分析した。あわせて『チベット大蔵経』の中観部に収められた五書 (東北nos. 3966. 3967. 3968. 3969. 3970) を解説した。	14頁
6. チベット文化と求道者	単著	1984. (昭和59年)	吉井芳純編 『チベットの仏教文化』	チベットの文化、特に仏教文献を中心とした文化の簡単な紹介、およびチベット学の始祖、チョーマ・ド・ケレス (ハンガリー人)、日本のチベット学の祖たる河口慧海を始めとする1959年以前の求道者としての日本人入蔵者の紹介。	14頁
7. ドルマ堂訪往記	単著	1985. 3 (昭和60年3月)	密教学会報24 高野山大学	アティーシャ (982-1054) が説法し、口伝要訣や灌頂などを与えた衛 (Dbus) の四大説法処の一つであり、彼が入寂した処でもあるチベットのラサ近郊のネタンにあるドルマ堂 (ターラー堂; アティーシャの念持守護仏はターラーであった) を訪問した記録である。ちなみに、拙稿「パーラ王朝の諸王が建立した四大仏教寺院」で述べたように、バングラデシュ国のダッカ近郊のVikramapuraのVajrayogiz]村がアティーシャの生誕地であるので、私はアティーシャの生誕地と入寂地の両方を実際に訪れ紹介したことになる。	4頁
8. 〈菩薩地戒品〉所説の菩薩戒の一考察	単著	1986. 3 (昭和61年3月)	印度学仏教学研究 34-2 日本印度学仏教学会	インド・チベット仏教における大乘菩薩戒の展開の一端を概観し、次にチベット人 Dxul chu Dharmabhadra (1772-1851) の講義〈菩提正道心髓〉 (東北蔵外No.6418) の内容を検討した。	8頁
9. チベットにおける菩薩戒の受容の一断面	単著	1988. 3 (昭和63年3月)	印度学仏教学研究 36-2 日本印度学仏教学会	チベットのサキヤ派の法主 Sa skya pazfiita Kun dga' rgyal mtshan (1182-1251) が著した〈Sdom gsum rab dbye〉 (三律儀細別) は声聞・独覚 (=小乗) のPrqtimok2a - sa'vara、大乘菩薩のBodhisattva - sa'vara、密教のMantra - sa'varaの三種の律儀の相互関係を論じたものである。このうち第二章「菩薩律儀」を検討し、大乘菩薩戒の特徴とこの戒がチベットにおいて受容された一断面とを窺ったものである。	8頁
10. Bodhisattva - prqtimok2a - catu2ka - nirhqra について	単著	1988. 10 (昭和63年10月)	密教文化163 高野山大学	!qntideva (寂天、7世紀後半) が著した〈大乘集菩薩学論〉 (!lik2qsamuccaya) において〈Bodhisattva - prqtimok2a〉という經典が引用されている。この〈Bodhisattva - prqtimok2a〉はチベット訳 (東北No. 248) が現存している。そこで、この經典の内容を概観した。併せて、Prqtimok2a (波羅提木叉、別解脱) とは初期仏教で僧伽の比丘・比丘尼が守るべき条文を集めたものであるので、「大乘のPrqtimok2a」とは何であるか	16頁

11. 〈菩薩地戒品〉和訳(Ⅰ)	単著	1989. 2 (昭和63年2月)	高野山大学論叢24	?を考察した。	21頁
12. 〈菩薩地戒品〉和訳(Ⅱ)	単著	1990. 2 (平成2年2月)	高野山大学論叢25	〈瑜伽師地論〉本地分の第十五〈菩薩地〉における第十章戒品のうち、最初から§2一切戒の「四種の他勝処」法」を説いた個所までを和訳研究したもの。	21頁
13. 〈菩薩地戒品〉和訳(Ⅲ)	単著	1991. 2 (平成3年2月)	高野山大学論叢26	〈瑜伽師地論〉本地分の第十五〈菩薩地〉における第十章戒品のうち、§2一切戒の「発露懺悔法」から§9清浄戒の最後までを和訳研究したもの。	10頁
14. 〈菩薩地戒品〉の受戒法	単著	1991. 12 (平成3年12月)	東北大学印度学講座六十五周年記念論集『インド思想における人間観』平楽寺書店	チベットのツォンカパ(1357-1419)が著した〈菩提正道〉(東北蔵外No.5271)の第二章一切戒の解説のうち、戒を受ける方法(受戒法)の解説部分の和訳・検討を試み、〈戒品〉所説の受戒法のインド・チベットにおける受容・展開の一側面を窺ったもの。	26頁
15. 〈菩薩地〉所説の菩薩戒に関する若干の問題	単著	1992. 3 (平成4年3月)	密教学研究24	インドの中期大乘仏教のテキスト〈瑜伽師地論・本地分・菩薩地〉の第十章〈戒品〉で説かれる大乘の菩薩戒の構造とその特質について考察したもの。	15頁
16. パーラ王朝の諸王が建立した四大仏教寺院	単著	1993. 1 (平成5年1月)	高野山大学密教文化研究所紀要6	『チベット大蔵経』所収の各テキストの奥書をもとにして、約8世紀から12世紀までのパーラ王朝の4人の王によって建立された、4つの大僧院とそこに所属した仏教者たちを考察した。ここではインド後期仏教(密教)が栄え、テキストの作成やチベット語への翻訳も行われ、大学問寺であったことの一部が分かった。	17頁
17. チベット密教	単著	1994. 3 (平成6年3月)	密教学会報33 高野山大学	チベット密教に視点を置いて、現在でも入手可能な和文の書物、論文の主なものを、コメントを付して紹介したもの。	12頁
18. 菩薩地〈戒品〉に説かれる「殺生」について	単著	1995. 6 (平成7年6月)	密教文化191	ターミナル・ケアの問題のうちで尊厳死の問題にも関連する「慈悲心と善巧方便に基づく殺生」について、Asaxga(無著、4世紀頃)作とされる〈瑜伽師地論・菩薩他・戒品〉を考察したもの。	17頁
19. 方便をとまなう十善戒—〈大日経〉と〈菩薩地戒品〉における—	単著	1998. 7 (平成10年7月)	『インド密教の形成と展開』所収 法蔵館	〈大日経〉の「受方便学処品」で説かれる菩薩の十善戒の思想が直接的には〈菩薩地戒品〉の影響を受けていることを証明したもの。	20頁
20. 瑜伽戒に関する敦煌出土チベット語写本	単著	1998. 8 (平成10年8月)	山崎泰廣教授古稀記念論文集『密教と諸文化の交流』永田文昌堂	敦煌から出土したチベット語写本のうち、瑜伽戒に関する〈菩薩律儀二十〉関係書、即ちStein tibの①no. 673と現存のチベット大蔵経に収められていない②no. 633-1 ③no. 674の3写本の検討を通して、これらの敦煌チベット語写本の特徴、ひいては敦煌仏教における瑜伽戒のありよう、瑜伽戒の受容の一端を明らかにした。	17頁
		2000	中国語訳(劉永増氏)		

		(平成12年)	『1994年敦煌学国際 検討会文集』 宗教文史巻上		
21. 書評 北村太道、ツル ティムケサン (共訳) ツォンカパ著『吉祥秘密集 会成就法 清浄瑜伽次第 —チベット密教実践入 門—	単著	1998. 3 (平成10年3月)	『密教学研究』29 所収	和訳研究の当該書の紹介と批評	6頁
22. 〈菩薩地戒品〉所説の大 乗菩薩戒に関するチベット 撰述文献 (I)	単著	1999. 2 (平成11年2月)	高野山大学論叢34	〈菩薩地戒品〉所説の「瑜伽戒」に 関するチベット人が著した注釈書3種 のうち、サキヤ派の尊師 Grags pa rgyal mtshan (1147-1216) が著した 〈!loka二十の解説〉(『サキヤ派全書 集成』Vo1. 4, No.136) の概要を提示し たもの。	17頁
23. 「瑜伽戒における不善の 肯定」	単著	2000. 5 (平成12年5月)	『日本仏教学会年 報』65	瑜伽戒における不善なる行為の容 認、肯定を説く記述を、〈菩薩地戒 品〉と〈大乘莊嚴經論〉、〈撰大乘 論〉において検討し、その意味内容を 明らかにしたもの。	19頁
24. 「瑜伽戒の受戒儀軌— Nqgqjuna 著〈発菩提心儀 軌〉とBodhibhadra 著 〈菩薩律儀儀軌〉を中心と して—」	単著	2000. 12 (平成12年12月)	高木神元先生古稀記 念論文集『仏教文化 の諸相』 山喜房佛書林	瑜伽戒の受戒作法を説いた Bodhibhadra 著〈菩薩律儀儀軌〉 (東北No.3967、大谷No.5362)のサンスク リット語写本の紹介と7～8世紀に在 世した Nqgqjuna 著〈発菩提心儀軌〉 の内容の解明。	13頁
25. 「〈菩薩地戒品〉所説の 大乘菩薩戒に関するチベッ ト撰述文献 (II)」	単著	2001. 2 (平成13年2月)	『高野山大学論叢』 36	ツォンカパ(1357-1419)が著した〈菩 提正道〉(東北蔵外No. 5271) (〈菩薩 地戒品〉に対する註釈書)の概要を提示 したもの。	13頁
26. 「インド・チベット仏教 における大乘の菩薩戒—無 著流と寂天流」	単著	2001. 3 (平成13年3月)	『密教学研究』33	大乘の菩薩戒のうち無著流と寂天流 の特徴、チベットにおけるその相承系 譜、ゴルチェン・クンガサンポ(1382- 1456)〈中観流の発心と自分で受戒す る儀軌〉の内容を考察したもの。	17頁
27. Candragomin 著〈菩薩 律儀二十〉とその注釈書 2種 —校訂テキスト—	単著	2002. 2 (平成14年2月)	『高野山大学密教 文化研究所紀要』15	チベット語テキスト3点 (Candragomin 著『菩薩律儀二十』、 !qntarak2ita 著『律儀二十註』、 Bodhibhadra 著『菩薩律儀二十難語 釈』)の校訂テキストを提示した。 その際、デルゲ版を底本とし、チョ ネ版、北京版、ナルタン版に加えて、 The Golden Manuscript Tanjur (『金写<丹珠爾>影印本』、18世紀 前葉)、都合5本の版本・写本とを 比較校合し、その内容を理解しやす いよう整理した。	131頁
28. !qntarak2ita 著 『律儀二十註』について	単著	2003. 2 (平成15年2月)	『高野山大学密教文化 研究所紀要』16	!qntarak2ita 著『律儀二十註』(東北No. 40 82)の和訳とその考察をしたもの。	19頁
29. チベット大蔵経所収の唯識 部のテキストについて (1)	単著	2004. 2 (平成16年2月)	『高野山大学密教文化 研究所紀要』17	チベット大蔵経の唯識部のテキストは A群(デルゲ版とチョネ版)とB群(ナル タン版と北京版、The Golden Manuscript Tanjur)の2に分類できる。各版(写本) 目録部の当該解説部分を比較対照して 提示した。	22頁
30. 書評 越智淳仁『図説・ マンダラの基礎知識』	単著	2007 (平成19年)	『密教学研究』39	書評	5頁
31. 書評 森雅秀『生と死から はじめるマンダラ入門』	単著	2008 (平成20年)	『北陸宗教文化』20	書評	5頁

32. "Shingon Esoteric Buddhist Rituals: the Rituals of Koyasan"	単著	2008. 3 (平成20年3月)	『高野山国際密教学術大会記念誌』	高野山で行われている密教儀礼のいくつかを紹介し、その意義を述べた。	10頁
33. 「現代社会における密教の具体的な展開—利他行の視点から—」	共著	2008. 3 (平成20年3月)	『密教学研究』 40	シンポジウムにおいて私はパネリストとして「国際社会における密教の展望として何を提示すべきか」というテーマでお話をした。	私の分は約6頁
34. 「インド・チベット仏教における大乘の瑜伽戒について」	単著	2009. 7 (平成21年7月)	『日本佛教学会年報』第74号	〈菩薩地戒品〉で説かれる瑜伽戒の概説とその特徴を述べ、新出資料のツァンナクパ〈律儀二十註、明解な句義〉を使用して〈大日経〉への影響関係を証明した。	12頁
(その他)					
1. 松長有慶『密教を知るためのガイドブック』再録		1995. 11 (平成7年11月)	法蔵館	『密教学会報』33に収められた拙稿に若干の加筆訂正をしたもの。	13頁
2. 修法と儀式		1997. 7 (平成9年7月)	『密教と曼荼羅』所収 世界文化社	密教の修法と儀式のもつ意味について分かりやすく解説。	8頁
3. 『仏典入門事典』中、三項目を執筆		2001. (平成13年)	大蔵経学術用語研究会編 永田文昌堂	「1795大方広円覚修多羅了義経略疏註」 「1796大毘盧遮那成仏経疏」 「1798金剛頂大瑜伽秘密心地法門義訣	3頁
4. " Bengal and Atisha"		2004. 3 (平成16年3月)	Dhaka, 2004年2月	Hasna Jasimuddin Moudud編 <i>Celebration of 1024th Birth Anniversary of the Venerable Buddhist Scholar Atish Dipankar Srijian</i> 所収	7頁
5. 「高野山の壇上伽藍とその意味」		2004. 3 (平成16年3月)	和歌山県高等学校教育研究会 国語部会	『会報』第32号	2頁
6. 「高野山の学道と真言教学」		2006. 2 (平成18年2月)	高野山真言宗教学部編	『紀伊山地の霊場と参詣道 高野山—神と仏のいます山—』	26頁
7. 「高野山の年中行事」		2006. 9 (平成18年9月)	高野山大学選書 刊行会編	『高野山と密教文化』 高野山大学選書第一巻	16頁
8. 「チベットと日本の絆」		2012. 4. 20	新潮新書	ダライラマ法王14世『傷ついた日本人へ』	5頁
9. 「仏教思想にみる他者への思いやり」		2012. 11	青海社	『「生と死」の21世紀宣言 Part 5』□	17頁
10. 「真言宗之経（永羅なし）地—高野山及其所施行的年中行事」□		2012. 06	陝西師範大学出版社有限公司	寛旭 主編『首届大興善寺唐密文化国際学術研討会論文集』第一巻	14頁

所属	文学部	職名	教授	氏名	藤田光寛	大学院の授業担当の有無 (有)
教育活動						
教育上の主な業績		年月日	概要			
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2003年 前期 (平成15年前期)	導入ゼミにおいて、パソコンを使ってスライドを見せ、授業の理解を補った。			
		2003年前・後期 (平成15年前・後期)	独自の受講カードを作成し、講義終了時に学生に今日の講義内容をふまえた簡単なクイズを出して解答させている。この提出されたカードが出欠カードを兼ねている。			
		2004前期 (平成16年前期)	高野山学1ではOHPを使用して授業を行い、内容理解の充実をはかった。			
2. 作成した教科書、 教材、参考書		2003年8月 (平成15年8月)	チベット語文法を担当していた時に受講生に配布。 『古典チベット語文法』B5、105頁			
			高野山大学夏季生涯学習講座in高野山2003で使用した教科書『仏教徒のあり方と戒律』A5、125頁			
3. 教育方法・教育実践 に関する発表、講演等		2006. 10. 14 (平成18年10月14日)	教育改革リレーフォーラムin高野（地域交流センター主催）において基調講演「綜芸種智院に習う」於高野山大学			
		2009. 6. 18 (平成21年6月18日)	高野山高校教育説明会（橋本市西部地区公民館）において「弘法大師の教育観」と題して講演する。			
4. その他教育活動上 特記すべき事項		2003. 10. 15～18 (平成15年10月15 -18日)	高野山真言宗教師検定試験受験者講習会の講師（真言宗史と密教概論）を担当			
		2004. 6. 18, 20 (平成16年 6月18, 20日)	大師教会において教会教師養成講習会の講師を務め「真言宗の教理」を講義			

2004年度 (平成16年)	前期4コマ、後期4コマ、高野山学1・2を担当
2005. 6. 18, 19 (平成17年 6月18, 20日)	大師教会において教会教師養成講習会の講師を務め 「真言宗の教義」を講義
2005年度～ (平成17年～)	高野山真言宗教師検定試験受験者講習会の講師 (真言宗史と密教概論)を担当
2008年度～ (平成20年)	大師教会において教会教師養成講習会の講師 を務め「真言宗の教理」を講義
2008年度 (平成20年)	前期6コマ、後期5コ、通信教育課程 2コマを担当
2009年度 (平成21年)	前期5コマ、後期4コマ、通信教育課程 3コマを担当
2010年度 (平成22年)	前期5コマ、後期4コマ、通信教育課程 3コマを担当
2011年度 (平成23年度)	前期3コマ、後期3コマ を担当
2012年度 (平成24年度)	前期2コマ、後期2コマを担当
2011. 8. 27	第8回21世紀高野山医療フォーラム基調講演 「仏教思想にみる他者への思いやり」
2011. 10. 28～ 11. 4 2013年度 (平成25年度)	ダライ・ラマ法王14世招聘委員会委員長を務め、 大阪会場と高野山会場において灌頂、法話、講演をして頂く
2013. 05. 07～08	前期2コマ、後期2コマ、通信教育課程の1コマを担当 チャト・リンポチェによる金剛界成就法の伝授会を開催
2014. 04. 13～15 平成2年度	ダライ・ラマ法王14世招聘委員会委員長を務め、 高野山大学黎明館において灌頂、法話をして頂く 前期2コマ、後期3コマ、通信教育1コマを担当

学会等および社会における主な活動		藤田光寛
日本印度学仏教学会	2007. 4. 1～2011. 3. 31 (平成19年4月～平成23年3月)	評議員
	2011. 4. 1～ (平成23年4月～)	理事
日本西蔵学会		
日本仏教学会	2007. 4. 1～ (平成19年4月～)	理事
日本密教学会	2005. 4. 1 ～ (平成17年4月～)	理事
印度学宗教学会		
密教図像学会		
日本山岳修験学会		
日本仏教社会福祉学会		
2003. 8. 9 (平成15年8月9日)	和歌山県高等学校教育研究会国語部会の高野山研修会で伽藍の現地案内をする	
2003. 8. 27～2003. 8. 29 (平成15年8月27日-29日)	高野山大学夏季生涯学習講座in高野山2003の講師 「仏教徒のあり方と戒律」	
2003. 9. 14 (平成15年9月14日)	高野町主催「2003祈りの経、山上の小宇宙」 第3部堂塔めぐり担当 (伽藍の金堂の中で 伽藍創建の意義等を解説)	
2001. 4. 1～2004. 3. 31 (平成13年4月1日-平成16年3月31日)	密教文化研究所専従研究所員	
2004. 4. 1～2005. 3. 31 (平成16年4月1日-平成17年3月31日)	密教文化研究所兼任研究所員	
2004年度 (平成16年)	高野山学 (高野町教育委員会主催) を3回 (5/15, 9/18 10/16) 講義担当	
2004. 4. 1～ (平成16年4月1日～)	高野町史編纂専門委員	
2004. 7. 3 (平成16年7月3日)	高野町石道「語り部養成講座」のルートカリキュラム の講師	
2004. 9. 12, 10. 17 (平成16年9月12日, 10月17日)	平成16年度高野山大学秋季公開講座in大阪の講師	
2008年度 (平成20年)	高野山学 (高野町教育委員会主催) を2回 (4/19, 7/19) 講義担当	
1987. ～現在 (昭和62年-現在)	高野山真言宗教師検定試験受験者講習会講師並びに 教師検定委員	
2001. 4. 1～2009. 3. 31 (平成13年4月1日-平成21年3月31日)	高野山住職会代議員	
1978. 12～現在 (昭和53年12月-現在)	高野山徳善院住職	
2005. 8. 20～現在	高野山大圓院住職	

(平成17年8月20日-現在)	
2009. 4. 1～(平成21年4月1日～)	高野山住職会監査
2009年度(平成21年)	高野山学(高野町教育委員会主催)を特別講座3回(7/18、 8/22、9/19)と普通講座(11/14)の講義を担当
2009. 10. 31～11. 2 (平成21年10月31日-11月2日)	第30回日本山岳修験学会高野山学術大会の実行委員長
2010年度(平成22年)	高野山学(高野町教育委員会主催)を特別講座2回(4/17、 7/17)と普通講座(11/20)の講義を担当
2011年度(平成23年度)	高野山学(高野町教育委員会主催)普通講座(11/19)担当
2012年度(平成24年度)	高野山学 普通講座9/15担当予定
大学行政への係わり(所属委員会)	
平成13年度(2001年)	情報処理委員会委員長 図書館協議会 同和研究会 密教文化研究所専従研究所員 各種奨励賞選考委員会
平成14年度(2002年)	情報処理委員会 各種奨励賞選考委員会 同和研究会 密教文化研究所専従研究所員
平成15年度(2003年)	情報処理委員会 大学院委員会 密教文化研究所専従研究所員 教員資格審査委員会
平成16年度(2004年)	情報処理委員会 密教文化研究所兼任研究所員 学生部協議会 教員資格審査委員会 大学院委員会
平成17年度(2005年)	同上
平成18年度(2006年)	同上
平成19年度(2007年)	密教文化研究所兼任研究所員 教員資格審査委員
平成20年度(2008年)	密教文化研究所長 教員資格審査委員
平成21年度(2009年)	密教文化研究所長 教員資格審査委員 大学院委員会委員
平成22年度(2010年)	密教文化研究所長 教員資格審査委員 大学院委員会委員 密教文化研究所協議会 自評検運営委員会 宗教教育担当 学生募集本部
平成23年度(2011年)～	高野山大学学長
平成25年度(2013年度)	高野山学 普通講座 1コマ (8/17) 担当
平成26年度(2014年度)	高野山学 普通講座 1コマ (8/16) 担当